① 桑台院虫歌観音堂 ふだいいんむしうたかんのんどう

大同(だいどう)元年(806)、坂上田村麻呂の建立と伝わる。また一説には、天文(てんぶん)13年(1544)、福徳寺六世快雄法印が霊夢を受け、建立したとの伝もある。古くは豊栄村にあった引虫寺(虫取寺)であったとも言われ、明治初年に廃寺となり、福徳寺が管理している。本尊は、伝行基菩薩(ぎょうきぼさつ)作の千手観世音。本堂は、天保(てんぽう)6年(1835)再建。仁王門は正徳4年(1714)建立。養蚕守護神として慕われ、縁日には近郷からの参拝者でにぎわった。信濃三十三番観世音七番札所、真言宗。

年に三度の縁日に開帳される御本尊

② 金刀比羅神社 ことひらじんじゃ

虫歌観音堂の正面、真田線の旧道に参道跡。人家のあいだをぬってかすかに残る小道を行くと出会う。江戸後期、松代藩による宮崎地区の新田開発の際、水害を避けるため、水上安全の守護神で水を制する金刀比羅大神を主神として勧請し、文政2年(1819)、社殿を建立したという。入母屋造り本殿に石祠が祀られている。例祭は9月15日。境内には他に秋葉神社、大山社などがある。天保12年(1841)建立の鳥居は、昭和34年の伊勢湾台風で倒壊、54年に皆神山神社領の御神木で再建された。

皆神山 みなかみやま

豊栄のシンボル皆神山。標高659メートル、周囲8キロ、丸みを帯びた山頂と急傾斜の斜面をもつ溶岩円頂丘(溶岩ドーム)形の独立峰で、風光明媚な地としても知られる。中世信濃国の修験道本山派の中心の和合院をもって栄え、禰古於呂志祭(ねこおろしさい)や小麦祭など古式ゆかしい祭を伝えている。地元人にとって信仰、祈りの山である一方、「皆神山ピラミッド説」やアニメ「オカルト学院」放映など、いつも不思議な話題を投げかける松代のパワースポットでもある。

豊栄地区から見た皆神山

㉑ 熊野出速雄神社 くまのいずはやおじんじゃ

皆神山頂に祭られている神社。関屋に移ってきた諏訪神氏大祝為仲の子孫が、この地方の開拓神、農耕神として出速雄命を祭祀したことに始まるという。社伝では創建が養老2年(718)、康応元年(元中6年/1389)再建。戦国末期には、皆神山修験が県下の修験を統括するまでに勢力を拡大している。鐘木造りの現社殿は室町時代のもので、埴科郡最古の建物。宝物殿に、永正4年(1507)作の大日如来座像などの木像三躯がある。御神木ヒムロピャクシンは、推定樹齢800年余、根回り4.2メートル、樹高14メートルの古樹。境内に侍従大神社、富士浅間神社などがある。

御神木ヒムロピャクシン

善光寺と同じ鐘木造りの堂

㉒ クロサンショウウオの産卵池

皆神山の山頂には大堀池、ひょうたん池(みそぎ池)・用水池と呼ばれる三つの池があり、大堀池は飲み水、みそぎ池は禊用、用水池は畑などの灌漑用の水として使われていた。用水池の東側には「呼び井戸」といわれる井戸がある。この池は市の天然記念物クロサンショウウオの産卵池としても知られている。

㉓ 岩戸神社(南大平古墳) みなみおおひらこふん

皆神山の南側中腹斜面、南大平地籍にある6世紀ごろの横穴式石室がある後期古墳。円墳の積石塚で、径18メートル、高さ6.2メートル。石室の全長は7.7メートルで、玄室は3.94メートル。羨道部の入口や天井石の一部は平林の道祖神や皆神神社の建立に使われた。ここは岩戸神社とも称され、豊受大神が祀られている。入口付近に「皆神山ピラミッドの入口ではないか」との看板がある。

⑲ 小丸山古墳 こまるやまこふん

直径30メートル、高さ4.6メートルの大円墳。皆神山の北側平地を支配した有力者の墓で、築造当初は、支配地を臨む見晴らしの良い場所だった。墳丘一部に葺き石、周りには周溝があり、竪穴石室のある古墳時代中期の円墳で、円筒埴輪も出土している。墳頂には、盗掘の跡を物語る窪地と大山祇命を祀る山ノ神の祠がある。寺伝では和合院の祖で舒明天皇第三皇子の古人大兄命(ふるひとのおおえのみこと)の陵墓とも伝わる。

㉔ 山伏石 やまぶしいし

もとは皆神山旧参道入口にあったが、圃場整備のため平林の村北地籍に移された。この石は権九郎石と呼ばれ、高さ1.1メートルほどの三角形の自然石。そばに「享保六天□□」と彫られた石仏がたたずむ。桑根井村の武術家井野口権九郎と試合して敗れ異郷に倒れた山伏(武芸者)を供養した石で、霊験もあらたか。粗末にすればたたりがあると伝えられている。

⑭ 桑根井空塚古墳 くわねいそらづかこふん

桑根井には10余基の古墳が点在するがその中で最も大きい積石塚の円墳で、径17メートル、高さ3.4メートル。屋根形天井がある合掌形石室はほとんど完全な形で残り、真南に開口している。古墳時代後期に属し墳土の上には何軒かのお墓が築かれている。古墳の上に屹立するクヌギの古木は、推定樹齢200年、幹回り3.4メートル、樹高12メートルのクヌギの古木が古墳に涼を注いでいる。

⑮ 藤沢萩神社 ふじさわはぎじんじゃ

建御名方富命が出雲国から信濃に逃げ下った際、現在の社地附近の住民が出迎え、命は舟から降りて休息した地との伝承を持つ。当初、中窪の三方土手に社木を植栽し社を建て、諏訪の宮としたが、用材が不足し、境内の萩の木を用いて造営、萩の宮と呼ばれるようになったという。明治19年(1886)、藤沢川の名をとり、藤沢萩神社と改名。祭神は諏訪大明神。奥の院と本殿があり、境内に皇大神宮などの摂社がある。

⑫ 桑井神社 くわいじんじゃ

桑井大明神勧請は文亀2年(1502)。「白髪の神人が来て、剣で千草を薙ぎ捨て、農夫の鍬を取り地を掘ると清水が湧き出、絶えることがなかった。そこを鍬野井といった。翁の姿が消えた林を鍬野井の神と崇めた」との伝承もある(「池田宮御手洗弁財天由来記」)。祭神は、建御名方命、八坂斗売命、天照大神。本殿、覆殿、祝殿、拝殿があり、境内には他に金毘羅社など四社が祭られている。4月15日が春季大祭、12月28日が大祓祭。

⑩ 諏訪社 すわしゃ

諏訪社とは、諏訪大社から祭神の勧請を受けた神社。平林の諏訪社の祭神は建御名方命・八坂斗売命。例祭は11月23日。皆神山和合院が別当寺だったことが神社棟札から知れる。天明2年(1782)松代藩が作成した平林村絵図によると、本殿は板葺き平屋で拝殿があった。境内左に、独特の鳥居を持つ金毘羅社、他に秋葉社なども祭られている。神社一帯は、鎌倉時代に、この地を支配していた英多荘地頭職(しき)平林氏の館跡と言われ、最近まで土塁が存在し、「政所」「花立」「大門」「堀内」「内堀」という館の時代を偲ぶ小字もあったという。

⑨ 龍潭山明徳寺 りゅうたんざんめいとくじ

明徳元年(1390)建立、明徳寺と号した。明応10年(1501)、保科広徳寺三世玉山春洞により、曹洞宗として再興開山。海津城将村上景国、松城藩主松平忠輝、松代藩主真田家が保護した。海津城主高坂弾正や太平洋戦争の硫黄島軍司令官栗林忠道中将らの墓があり、本堂裏手には、「蛙合戦」で有名なヒキガエルの産卵池(長野市指定天然記念物)がある。本尊は釈迦牟尼仏。小僧に化け毎夜酒を買った「酒飲み弥勒」の伝承も残る。

高坂弾正の墓

栗林忠道中将の墓

⑥ 源関神社 げんせきじんじゃ

社伝では、諏訪神氏の一族大祝為盛が、延久元年(1069)関屋に住み関屋氏の祖となった際、産土神として建御名方命を勧請し創建。祭神は建御名方命、八坂刀売命、事代主命。例祭は9月15日。杉の木が密集する境内地には、禊の小川が流れ、常夜灯が立つ。石畳、石段があり、狛犬が参拝者を迎える。一間社流造りの建物。屋根は板葺きで母屋は丸柱。向拝は大面取角柱。向背の龍、木鼻の獅子の彫り物は秀逸。関屋氏の庇護が厚かった神社で、応永12年(1405)の棟札には、本願主関屋市兵衛の名が記されている。長野市指定文化財。

⑦ 赤柴閻魔堂跡 あかしばのえんまどうあと

現在の赤柴の公民館の敷地は、江戸時代中ごろ祭られていた地蔵堂(本堂)と閻魔堂の跡地。この屋敷は古くから「閻(りょう)」と呼ばれていた。閻とは「里中の入り口の門」の意味。地蔵峠のふもと赤柴は、峠に向かう登り口で休憩の地、旅人は旅の安全を願い、峠・境・辻に祭られた地蔵尊を拝み旅立った。閻最後の管理者晩成(ばんじょう)和尚は、明治6年(1873)まで、赤柴集落のこどもらに読み書き、算盤(そろばん)を教えていた寺子屋の師匠だった。。

⑧ 伊勢宮神宮 いせみやじんぐう

赤柴公民館と道を挟んで向かい合う伊勢宮神宮。山上の方から流れ来る二つの川の合流地にあって、木の鳥居が立つ。鳥居の先を行くと少し高台になったところに相撲の土俵があり、その横に別の鳥居と木柵に囲まれた苔むした[男陽神石・女陰神石]が縁結びの神として祀られている。ここから伊勢宮神宮の社まではかなり急な坂道を登って数分。山頂には展望台もあり、赤柴界隈を望むことができる。

西条[欠]及び周辺地域

③ 西条「欠」集落 にしじょう「かけ」しゅうらく

ノロシ山の峯を堺に西条地区山腹の一部地域が豊栄地区の中に抱かれているような形で、西条地区「欠」集落を形作っている。江戸時代、「真田(現上田市)～地蔵峠～松代城下」の北国脇往還・松代街道(現長野真田線)が、東信・北信を結ぶ最短ルートとして利用され、ふもとの関屋村に松代藩の口留番所(くちとめばんしょ)が置かれ、人や物資の出入りを監視。交通の要衝として藩の財政にも寄与した。宮門の両脇に設けた石の物見やぐらの台を古く「闕(けつ)」と書いた。この飛び地「欠」は松代にとって地形的に欠かせない要所の名残の地名であるといえる。

西条・欠地域へ

旧番所のあった辺り

④ 欠の諏訪大明神

社伝では、欠村の産土神が、のち諏訪社となったという。英多荘(あがたのしょう=松代一帯)の土豪県氏(あがたし)の鎮守の宮でもあった。承久3年(1221)承久の乱の際、県左近将監(さこんしょうげん)は、同社に武運を祈願し上洛、宇治橋の合戦で武勲をあげた。諏訪の古文書「守矢満実書留」に「大県介西条」、「西条」という記載があり、西条地区と県氏は古くから諏訪信仰とゆかりが深ったことが伺える。鳥居左に御神木ケヤキの古木。祭神は建御名方命、例祭は9月23日。境内には他に古峯社がある。

⑤ 関屋為仲公一族之碑 せきやためなかこういちぞくのひ 六尊種字石 ろくそんしゅじせき

関屋氏は諏訪神氏(じんし・みわし)の一族とされ、大祝為仲(おおほうりためなか)を祖として、その子為盛の時にこの地に移って関屋氏を称したという。関屋の地は交通の要衝地蔵峠のふもとにあり、関屋氏は人の出入りや物資の流通を押さえ栄えたが、明応元年(1492)以後に、村上氏によって攻め滅ぼされた。積石塚状の墳丘にある関屋家の墓所中央の供養塔は近世に建立された石塔で「関屋為仲公一族之碑」と刻まれている。関屋家の墓所から3本出土(平成22年8月)した県内最古級の銘文が刻まれた石柱は、「承元三年(1209)才次己巳壱月十八日願主神行平□也」(□は菩提の異字体か)の文字が読み取れる。上部6面に「バークン(金剛界大日如来)、バク(釈迦如来)などの種字(梵字)が大きく刻まれているところから、平安末期から鎌倉期の特徴をもった石柱と推測されている。[地籍:豊栄3番地]

ウォーキングのモデルコース

豊栄 TOYOSAKA

皆神山外周コース
スタート
川中島バス発着所

↓10分
① 虫歌観音堂
↓5分
② 金刀比羅社
↓10分
③ 西条欠集落
↓5分
④ 諏訪大明神
↓5分
⑤ 関屋一族の碑
六尊種字石
↓7分
⑥ 源関神社
↓5分
⑦ 赤柴閻魔堂跡
↓ 3分
⑧ 伊勢宮神宮
↓10分
⑨ 明徳寺
↓15分
⑫ 桑井神社
↓10分
⑭ 桑根井空塚古墳
↓ 7分
⑮ 藤沢萩神社
↓ 7分
㉔ 山伏石
↓ 3分
⑩ 諏訪社
↓ 20分
ゴール
川中島バス発着所

トータル約2時間
(+休憩・見学時間)

皆神山登拝コース
南参道 車(徒歩)

スタート桑根井
エバーグリーン登山口
↓3分(15分)
岩戸神社
↓5分(15分)
※車駐車場 以下徒歩
皆神山侍従大神
↓境内散策(20分)
随神門
↓(10分)
小丸山古墳
大日堂まで北参道
徒歩15分
↓(15分)
随神門
※車駐車場

発行/松代まち歩きセンター・松代観光推進機構・NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会 協力/まちプロジェクト